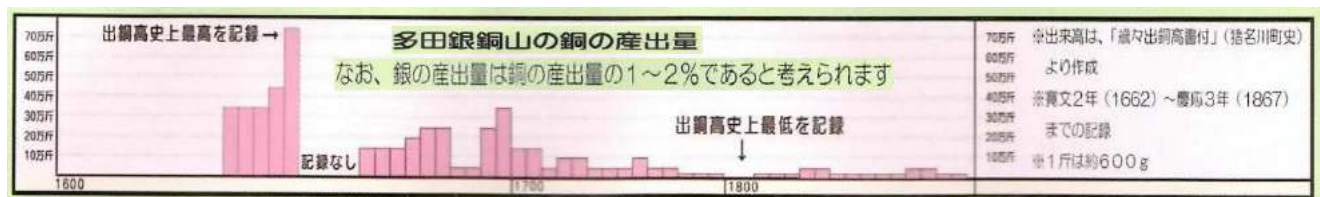
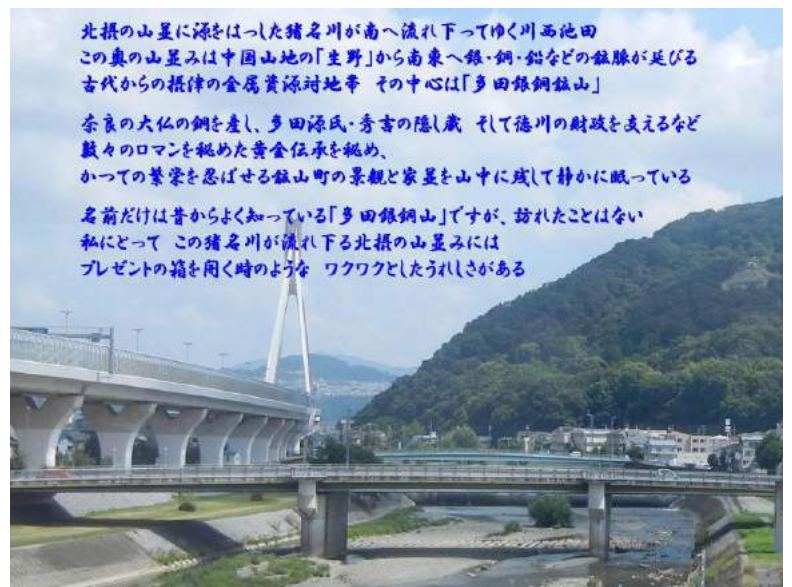


多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016.8.18.& 8.24.

多田銀銅山 大露頭 2016.8.19. 13:02



多田銀銅山を中心とした兵庫県猪名川町や川西市、宝塚市、そして大阪府豊能町など十数キロ四方に広がる山里の地域には、古代から多数の小規模な鉱床が散在する鉱山地帯。その中心、猪名川町多田銀銅山は銀・銅を主とする大鉱山。その最盛期は16世紀後半～18世紀前半、吹屋（ふきや）（精錬所・採銅所）が76軒も立ち、そのにぎわいぶりは「銀山三千軒」と呼ばれた。江戸時代には、新たな銀の大鉱脈が発見されると幕府直轄となり、最盛期、その生産量は銀で佐渡銅で足尾に次ぐ大鉱山となって国をささえた。その後、資源の枯渇とともに衰退しつつも、明治になって民営化されるが、引き続き昭和40年代まで生産がつづけられたという。



東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国 北摂の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016.8.18&8.24

【 内 容 】

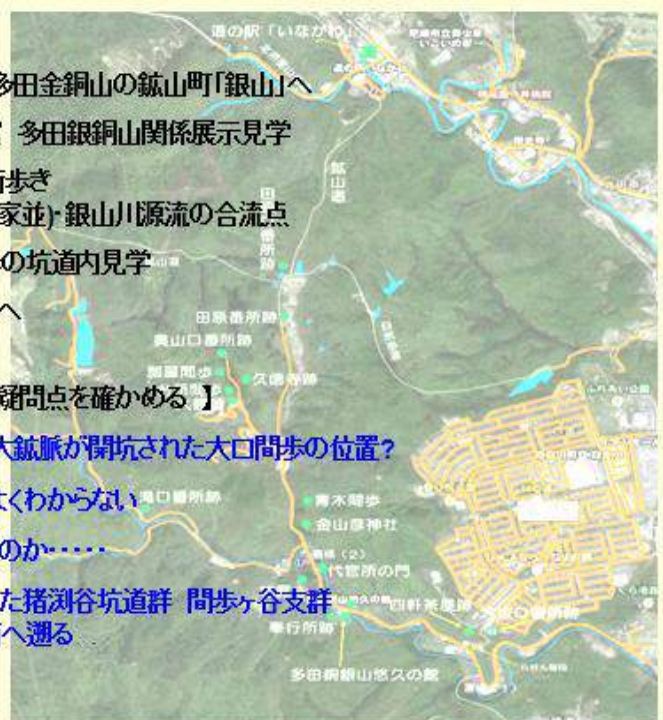
【2016.8.19. 多田銀銅山の鉱山町「銀山」を歩く】

1. 猪名川町広根「銀山口」から銀山川に沿って 多田銀銅山の鉱山町「銀山」へ
2. 悠久の広場 明治の銅精錬所跡 & 悠久の館 多田銀銅山関係展示見学
3. 悠久広場から 多田銀山の鉱山町「銀山」の街歩き
代官所跡・銀山橋高札・本町(甘露寺・本町の家並)・銀山川源流の合流点
4. 多田銀銅山の「山の神」金山彦神社・青木間歩の坑道内見学
5. 多田銀銅山の大露頭から大切間歩・瓢箪間歩へ

【2016.8.19.多田銀銅山の鉱山町「銀山」の再訪 疑問点を確かめる】

1. 多田銀銅山の江戸時代の繁栄をもたらした銀の大鉱脈が開坑された大口間歩の位置？
2. 鉱山町「銀山」江戸時代の製錬場(採銅所)がよくわからない
3. 多田銀銅山の製錬スラグは磁石にくっつかないのか……
4. 現説資料で知った間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪淵谷坑道群 間歩ヶ谷支群
新名神道路建設中の県道324 猪淵川沿いを西へ遡る

◎ 追補参考資料と参考資料リスト







銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 2016.8.19.



銀山口から多田銀銅山へ

道のすぐ下に 銀銅山から流れ下ってきた銅山川が見えるが、水量は少ない細い流れ



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 2016.8.19. 白金2丁目バス停から西へ螺旋階段へ
かつての鉱山道はこの崖の上を通っていたようで、この崖上に800mの長さのトンネルがあった



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 猪瀬・肝川の集落への道との分岐 11:28
道の左手へ 銅山川に降りて渡り、さらに尾根を越えて、猪瀬・肝川の集落への道との分岐



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 [2] 白金2丁目バス停から 螺旋階段へ 2016.8.24.



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 [2] 2016.8.24.
パークタウンの中にある白金2丁目バス停から西へ住宅街を抜けて、崖の縁から螺旋階段を下りて、崖下の多田銀銅山の道へ合流
かつてはこの崖の上に大阪口書所があったようだ

白金2丁目
バス停 0.4km
多田の里
0.8km



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 銀山町集落の入口 2016.8.19. 11:34
螺旋階段から下りて見えた工場作業現場の横に釜名川ふれあいバス銀山のバス停 銀山町に入った。



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 [2] 白金2丁目バス停から 螺旋階段へ 2016.8.24.



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての鉱山町「銀山町」の集落の中に入る



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山の鉱山町「銀山」集落の入口。すぐ、蛇行しただらけの坂の峠から家並がみえ、猪名川町銀山町の集落に入る



多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山の鉱山町「銀山」の集落の家並



銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山「銀山町」集落の家並



多田銀銅山walkのセンター 悠久広場

明治のレンガ積精錬所跡が見える悠久館前 多田銀銅山悠久広場 2016.8.19. 11:40

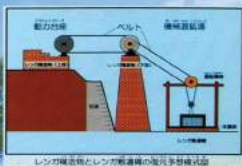


銀山口から多田銀銅山へ

多田銀銅山への道 2016.8.19. かつての多田銀銅山の鉱山町「銀山」集落の家並。多田銀銅山最盛期には吹簾などの産並が両側にびっしりで「銀山三千軒」と呼ばれたという。



多田銀銅山walkのセンター 悠久広場



明治40年に建設された電氣製錬所跡の機械選鉱場のレンガ積み復元モデル。発掘調査で、機械選鉱場に並び製錬場があったことも確認されているが詳細不明。復元位置は正確でない



多田銀銅山walkのセンター 悠久広場

明治には明治の精錬所跡。その後には寛永年間の繁栄を支えた大口開歩など多数の開歩がある険しい山。悠久の広場 2016.8.16



多田銀銅山の資料館「悠久の館」 悠久の館の隣、銀山の町に伝説の町



堀家製錬場で作した赤レンガとカラミレンガ
赤レンガ と カラミレンガ

多田銀銅山には鉄含有量が少なく、カラミは磁石で引っ付くのですが、この多田銀銅山のカラミは磁石に引っ付かず、製造に用いた鉄・銅鉱石の鉄含有量が少ない銅の鉄の割合に注力されたため、多田製錬場では鉄・銅の割合が調整されたカラミが、そういつとカラミがもっとも軽いと感したので、そんなことによるのかしら、



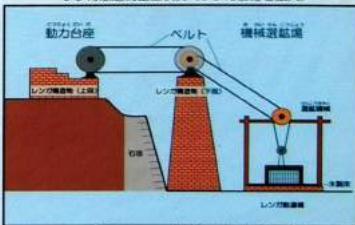
南西の端から広場全体を眺める この広場に明治の末、製錬場が作られたが、安定稼働の資料はないと聞く
冷鉱炉跡を眺めたかったのですがダメ。 かつてここに大きな冷鉱炉のレンガ煙突がそびえていたという。

レンガ敷遺構の復元展示

発掘調査では、レンガ構造物の前面にレンガ敷遺構が出土しました。レンガ敷は新しい振動を伴う基礎構造物を設置した基礎の基礎と考えられます。土層の断面から、レンガ敷の上に木製板が床として張られていたと推定されます。現在、出土したレンガ敷遺構は埋戻しして保護されています。土層の上に、現代のレンガを使用して発掘調査時の出土状況に近い形で再現しています。



レンガ敷遺構出土状況 (レンガ部分を拡大)

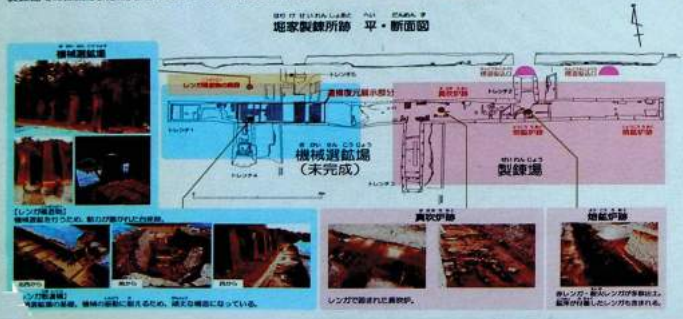


レンガ構造物とレンガ敷遺構の復元予想模式図

今回の調査範囲の山側に、一段高い平坦面があります。全体の機械配置は未調査のため、個々のレンガ構造物の用途は明らかになっていません。しかし、遺構の配置状況から明治40年(1907)にボイラーが搬入されたのは、上段のレンガ構造物であったと推測されます。当時は蒸気機関も設置される予定で、発生した動力は滑車とベルトで伝達され、上段と下段それぞれの遺構の機械を動かす設計であったと考えられます。下段にある高さが増した基礎のレンガ構造物は、回転軸を保持するための土台として建造されたものと推測されます。また、5基のレンガ構造物より約2.4m高い東側のレンガ構造物は機械遺構の一部で、鉱石のシュート(落し溜)と想定されます。

堀家製錬所跡の施設概要

農商務省鉱山部の記録によれば、明治40年(1907)、多田銀銅山には機械遺構の基礎と蒸気機関の一部が設置されたと記されています。しかしながら、翌年の明治41年(1908)に休業となり、機械遺構は稼働することはありませんでした。今回の発掘調査でレンガ構造物の前面に、蒸気機関の基礎となるレンガ敷遺構が出土し、機械遺構の位置が確認できました。また、これまで遺構とその出入口の存在から製錬に関する施設の位置は推定されていましたが、どの程度の規模で行われたのか不明でした。発掘調査では、蒸気機関で使用された鉄レンガや赤レンガが多数出土し、製錬場があったことが改めて確認できました。なお、蒸気機関で動かして、右(南東)の谷間に振り回して捨てた大量の「銅屑カラミ」が見つかりました。これにより、この製錬場での作業は試験的なものではなく、本格的な作業が行われたことが明らかになりました。



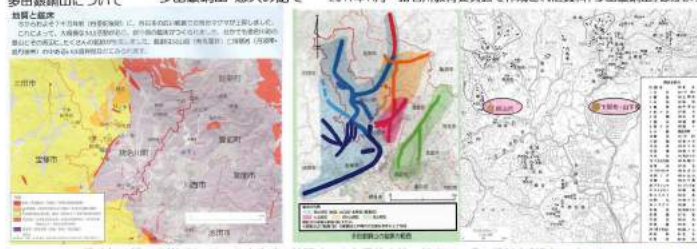
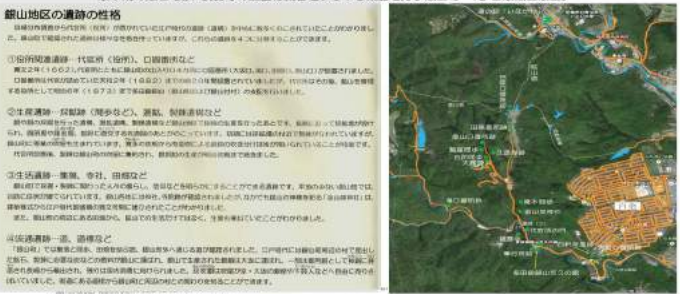
“悠久の館”

多田銀銅山の歴史を紹介する施設で、最盛期であった江戸時代を中心に絵巻や古文書に示された多田銀銅の鉱山町や間歩など製錬場を構成する施設の配置分布などが解説展示されている。また、採取した鉱石や製錬工芸や銅・銀・鉛の製錬の解説や発掘調査された遺構の様子や多田銀銅山の歴史の展示、71名の歴人物なども紹介展示され、多田銀銅山、近代から現代にいたるまでの多田銀銅山の歴史の役割が示されている。

内部は撮影禁止だったので、展示パネルのほとんどが2014年11月、第3回教育委員会で作成された資料「多田銀銅山」に、ほぼそのままの複製や転写等でまとめられているので、そちらを参照されたい。



時代	内容(年表)	解説(年表)
縄文時代	約2500年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約1200年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約1000年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約800年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約600年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約400年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約200年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約100年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約50年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約20年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約10年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約5年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約2年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約1年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約0年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-1年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-2年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-3年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-4年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-5年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-6年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-7年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-8年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-9年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-10年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-11年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-12年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-13年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-14年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-15年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-16年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-17年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-18年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-19年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-20年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-21年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-22年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-23年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-24年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-25年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-26年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-27年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-28年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-29年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-30年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-31年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-32年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-33年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-34年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-35年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-36年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-37年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-38年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-39年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-40年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-41年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-42年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-43年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-44年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-45年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-46年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-47年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-48年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-49年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-50年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-51年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-52年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-53年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-54年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-55年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-56年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-57年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-58年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-59年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-60年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-61年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-62年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-63年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-64年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-65年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-66年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-67年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-68年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-69年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-70年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-71年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-72年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-73年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-74年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-75年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-76年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-77年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-78年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-79年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-80年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-81年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-82年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-83年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-84年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-85年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-86年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-87年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-88年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-89年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-90年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-91年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-92年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-93年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-94年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-95年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-96年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-97年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-98年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-99年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)
縄文時代	約-100年前(縄文時代)	多田銀銅山の歴史(縄文時代)



多田銀銅山walkのセンター 悠久広場



周辺の開歩から掘り出された銀・銅鉱石は「銀山三千軒」と呼ばれる鉱山町「銀山」の牧屋(生産工場)で粗銅・銀に選鉱・製錬されて 大阪・江戸に送られた

多田銀銅山 悠久の館で 2014年11月 第8回教育委員会で作成された資料「多田銀銅山」ほかより

街並・間歩見学walk



多田銀銅山 銀山橋のたもとにある高札場 2016.8.19.

街並・間歩見学walk



銀山橋を渡って奥の間歩を見に行く 2016.8.19. 12:46
市人の手で色々敷き詰められた後、広場の日陰で 両刃を秘めながら待機
中絶。 いよいよ間歩の見学へ
所蔵の中に入る南木遊歩 大蔵蔵が目に映る台所間歩
所蔵の秘し蔵 間歩遊歩を見に行く

街並・間歩見学walk



多田銀銅山 江戸時代一番繁栄していた銀山町「銀山」本町 今は静かなもの 2016.8.19.
道は山の麓が通り、右を越山川が流れて下る狭い、名前に似ていない感じがする。
右側に大口間歩のある大きな山があるのですが、道の両側は森で覆われ、視界がひらけない。

街並・間歩見学walk



多田銀銅山 銀山橋のたもとにある高札場 2016.8.19.

街並・間歩見学walk



甘露寺は、ここから坂を上った山の上にある寺で、6世紀に開かれたと伝えられている。
現在は墓地と荒れたお堂があるだけですが、この銀山町の繁栄をもたらした大口間歩など多くの間歩がある岩山(225m 念力山)の姿全体が見える場所でしたが、大口間歩など多くの間歩がある正面は見えず。

多田銀銅山 江戸時代一番繁栄していた銀山町「銀山」本町 甘露寺の入口 2016.8.19. 12:19

街並・間歩見学walk



多田銀銅山 江戸時代一番繁栄していた銀山町「銀山」本町 甘露寺の入口周辺 2016.8.19.

街並・間歩見学walk



多田銀銅山 江戸時代一番繁栄していた鉱山町「銀山」本町 2016.8.19. 12:19

街並・間歩見学walk



銀山川源流の合流点。西の番所と北の番所への道の分かれ。2016.8.19.
銀山代官所の門がある広芝家の横の橋で銀山川は西と北の二手に分かれて流る。西へは家並みを抜け、滝口番所・ソエ谷への道。北へはいよいよ狭い谷筋となり、青木間歩。大所間歩。瓢箪間歩を経て、奥山口番所や田原口番所へと分け入ってゆく。橋を渡った角の合流点右手にはむき出しの岩があり、平戸跡の案内板があり、その上には山の神 金山彦神社が鎮座している。

街並・間歩見学walk



銀山川源流の合流点に建つ平戸跡の案内板 2016.8.19.
奥山一休力から多田銀銅山へ通じていた

街並・間歩見学walk



金山彦神社
平戸跡（むつアキ）大所2年銀山として開採されたとき、山神として尊ばれた（アキアキ）大所2年銀山町にまつ神社がある。
平戸跡（むつアキ）大所2年銀山町にまつ神社がある。
平戸跡（むつアキ）大所2年銀山町にまつ神社がある。
平戸跡（むつアキ）大所2年銀山町にまつ神社がある。

多田銀銅山の山並 金山彦神社 鳥居前 雨には大口間歩のある金力山が見える 2016.8.19. 12:22

奥山一休力から多田銀銅山へ通じていた

多田銀銅山 江戸時代一番繁栄していた鉱山町「銀山」本町 崖上の甘露寺 2016.8.24.

崖上の甘露寺から視界が開けることを期待して 坂を上って崖の上に上る。 2016.8.24.



本堂はないが 銀銅山の人の集めた古い寺で この甘露寺の境内からも 金力山の変は絵画のような形では見えませんでした

街並・間歩見学walk



多田銀銅山 江戸時代一番繁栄していた鉱山町「銀山」本町 2016.8.19. 13:10

広芝家に移築された元銀山川代官邸の門

街並・間歩見学walk



北の番所と北の番所へ通る銀山川の合流点 奥の岩台には平戸跡の案内板が建つ 2016.8.19.

街並・間歩見学walk



銀山川源流の合流点 西の番所と北の番所への道の分かれ 2016.8.19.
この分かれのすぐ北には多田銀銅山の山神 金山彦神社がありました



街並・間歩見学walk

多田銀銅山の山の神 金山彦神社 社殿 2016.8.19.



街並・間歩見学walk

多田銀銅山の山の神 金山彦神社 長い石段道を上り終えた境内 2016.8.19.



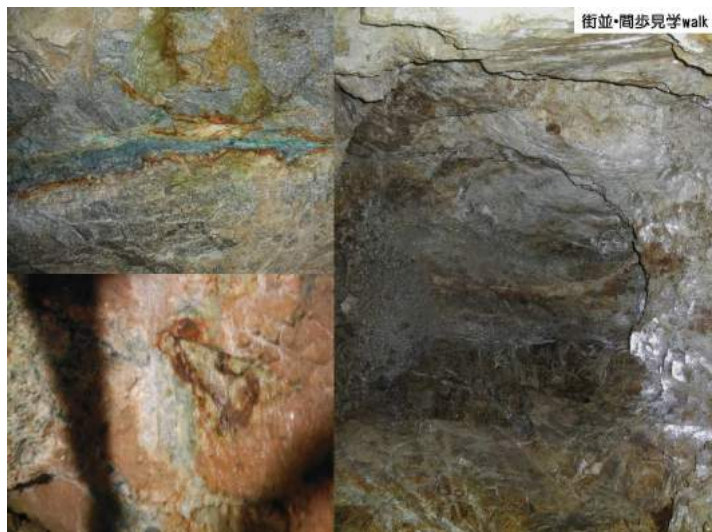
街並・間歩見学walk

青木間歩 2016.8.19. 12:34
昭和に入ってから機械掘りで探掘された間歩で、唯一内部が一般公開されている



街並・間歩見学walk

金山彦神社のもちの街道へもどり、銅山山麓の湖妙庵を最上へ北の青木間歩へ 2016.8.19.



街並・間歩見学walk



街並・間歩見学walk

青木間歩 坑道の中 銅・鉛鉱脈も見えて、るようですが、正確にはわかりず 2016.8.19.



街並・間歩見学walk

この坑道の年代は特定
できませんが、鉱脈に
沿ってノミやタガネを
使って掘った手掘りです。



街並・間歩見学walk

青木間歩 2016.8.19. すぐ上にある手掘りの坑道跡を見に行く



坑道内の水抜き痛風穴 2016.8.19

青木間歩のすぐ近くですが、同時に目撃し、白鷺山の山頂との間歩につながっているのか、不明です。



昭和41-46操業の白鷺多田鉱山事務所跡 2016.8.19、
すぐ奥に見えるのが台所間歩の跡地



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19 13:02



12:47 さらに北へ街道を遡って 大所間歩・瓢箪間歩へ



水抜き穴からすぐ 台所・瓢箪間歩への道(左)とまっすぐ田原事務所への街道(右)の別れ 12:49
左へ折れて 大露頭の見える台所間歩・秀吉の隠し蔵瓢箪間歩へ向かう



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19 13:02

白鷺鉱山事務所を過ぎると目の前にむき出しの岩山が正面に立ちあがった。
案内標識には瓢箪間歩大露頭となっていました。すぐ横に台所間歩があり、どちらの間歩
もこの露頭の趾を探索する坑道だったと思われる。

鉱山が地表に露出している部分を露頭といい、
多田銀銅山露頭では約1,000万年前、マグマ上昇により形成されたマグマの上層に溜まっていた金属等を溶
けかき出した熱水が、非晶性シリカによって岩の隙間を埋め固まって上昇し、地表近くの浅い場所です
で冷却され、石灰とシリカ、銅等の金属を形成し鉱床を形成。その後の地殻変動でその部分が山となり、山
の崩壊や浸食作用によって崩壊し、鉱床が地表に露出してくる。これを露頭と呼ぶ。
地帯的なもので幅3-5m、太さ15mに5mほど、何となくには台所間歩や瓢箪間歩がある。



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19 右手案内板すぐ横に台所間歩がある



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19.
黒ずんだ岩肌の中に白い細長い部分があるのが、地表に露出した石英脈のようだ。



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19.



多田銀銅山 大露頭 2016.8.19. 右手案内板すぐ横に台所間歩がある



多田銀銅山大露頭の北端道路にある台所間歩 2016.8.19.



石英脈脈の一例

多田銀銅山 大露頭 2016.8.19.



龍華間歩を見にさらに北へ 2016.8.19. 13:00
首箇の谷川を渡ったところが徳久寺跡の入り口。振り返ると龍華間歩の入口が見えていた。



銀山史跡案内板

台所間歩



多田銀銅山 龍華間歩 2016.8.19. 13:30



銀山史跡案内板

龍華間歩

多田銀銅山 龍華間歩 2016.8.19. 13:30





さらに遡って 峠を越え、現地説明会資料をみつけた間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群の場所に向かう。ほぼ峠の現在 宝塚へ抜けるトンネル工事が行われている位置へ県道をのぼってゆく。



宝塚市切畑への峠を新名神はトンネルで越えてゆく トンネルの工事現場までやってきました 2016.8.24.



猪瀬谷を出て 県道を少し西に行った谷間 猪瀬谷坑道群1号・2号間歩周辺 2016.8.24.

このあたりだと思うのですが、県道の両側に点在する工事用入り口や林へ通じる級道も中へは入れます。また、工事関係者からは遺跡について わからず。ただ、この奥の斜面の林の中に小さな祠が祭られていました。

新名神道路建設が進む猪瀬谷 2016.8.24.



現説資料にあった間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群 2016.8.24

新名神道路建設が進む猪瀬谷 2016.8.24.



この峠のトンネル工事現場が現説資料にあった間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群 2016.8.24

工事現場へは残念ながら、入れてもらえず。ここから引き返すことに



間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群 現説資料【2】 2014.3.2.



間歩や銅選鉱・製錬遺構が出た猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群 現説資料【1】 2014.3.2.



再度 猪瀬谷 間歩ヶ谷1号-2号間歩道は下っていく。やっぱり このあたりだなあと 2016.8.24.
デジカメに収めた位置も 周辺には違いないですが、 ちょっとずれているような感じがしています。



この峠のトンネル工事現場が現説資料にあった間歩や銅鑛・製錬遺構が出た
猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群 2016.8.24

摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く

小さい時から よく名前は知っていた北摂川西の奥の多田銀銅山ですが、初めて訪れることができました。
もっと深い山かと思っていましたが、近隣の大阪のベッドタウンとして、都市化が急速に進行中。
今も新名神の工事が進む開発途上の地域。びっくりでした。

坑道にも入れたり、山に登ることもなく銅鑛脈の大露頭が見れたのには本当にびっくり。一番の収穫。

また、銅・銀製錬のプロセスが、繁栄した江戸時代になっても 手作り工場感が強いものにもびっくりで、
鉱山町「銀山」も たたら製鉄の鉄山とは随分印象が違うと。

国の史跡に指定されたところで、キャンデフレースばかりが、ちょっと先行しているイメージが強い。

奈良の大仏の銅 多田源氏・秀吉の埋蔵金 そして 南宝蔵も いち早く取り入れたのが多田銀銅山とも。
自然銅や硫化物鉱石が枯渇して衰退しながらも、硫化物原料を大量に使い再度繁栄に転じるなど技術的
な創変も経験していることも初めて知りました。
色々考えをめぐらすと面白い。

また、銀銅山と同じ鉱脈が続く猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群から坑道の前で鉱石処理から製錬までの
銅取り出しの諸施設が見つかったのにも興味津々。初めて目にする銅精錬遺構の写真にびっくりするし。
銅製錬のイメージ 随分参考に。

猪瀬谷の新名神建設現場沿いをたどってみました。残念ながら遺構を見られませんでした。
夏の暑いさなか、ゆつたりと色々想像しながら、緑の中の山道の街並み ぶらぶら歩くのが結構楽しい。
また、川西の街まで30分足らずで、出れるのも魅力。

2回にわたる 銀銅山の鉱山町のぶらぶら歩き
すごいタ立にも出会いましたが、楽しい多田銀銅山Walkでした。

2016.8.30 多田銀銅山walkの資料を整理しながら



2016.8.24 17:40

参考追補資料

東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016. 8.18.& 8.24.

最盛期の江戸時代の街道部の景観や家並・多数の坑道(坑道)などがそっくりそのまま残る

また、すぐ近くで 銅の露頭がみられるものにもびっくりしました。



多田銀銅山 入露頭 2016.8.24

摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川 多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く

参考資料

1. 猪名川町教育委員会編「多田銀銅山」2014.11月
2. 悠久の館 多田銀銅山の絵図 映像資料
3. 豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊)兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11
インターネット より http://www.nikkei.com/article/DGXLASHC07H2S_X00C15A9AA1P00/
4. 多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理
多田銀銅山跡 探索 のpage より <http://www.geocities.jp/~windmill/ginzan/ginzan.html>
5. 多田銀銅山史跡保存顕彰会のページ
<http://www.tadaginrankenshouka.com/> 多田銀銅山探訪ガイド/多田銀銅山の史跡/
6. 400年前からある“吹き場のまち” — 多田銀銅山精錬所の街 下殿町・山下町 —
<http://www.sonet.ne.jp/~kouraro/loca/gezei.htm>
7. 兵庫県まちづくり技術センター
新名神猪瀬谷地区工事現場 猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会資料 平成26年3月14日
8. 【Youtube 動画】猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会 平成26年3月14日
<https://www.youtube.com/watch?v=ApjleRy01E>



豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊) 兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 6:00

北摂の山中にある多田銀銅山が今秋、国史跡の指定を受ける。
兵庫県猪名川町や川西市、宝塚市など十数キロ四方に多数の小規模な鉱脈が点在する鉱山
地帯で、近世や近代の道跡が良好に残り、国内鉱業の歩みの一シーンを物語る。
江戸時代に代官所があった「銀山町」には現在、資料館「悠久の館」が立つ。近くにある青木間
歩(まふ) (坑道)を訪ねた。道中、木立の間から坑道らしい穴があらちのぞく。
青木間歩は唯一、内部を見学できる間歩だ。
現在の坑道は戦後に明治時代に建てたものだが、天井に小さな立て柱があった。
「江戸時代、手廻りで鉱脈を巡ったひびひの道だ」と猪名川町教育委員会文化財担当
の青木実希さんが教えてくれた。
図明に荒々しく削られた壁が浮き、地下水が滴る。壁(たがね)で岩を打つ響きが聞こえて気が
がした

■11世紀から記録

多田銀銅山には東大寺の大仏造営の際に銅を献上した伝承があるが、
史料では11世紀の採銅記録が最も古い。
最盛期は16世紀後半から18世紀前半。
豊臣秀吉が開発して大坂城の財政を潤したとされる。
万治3年(1650年)に良質な銅脈が見つかったと江戸幕府が直轄し、
代官所を置いた。

井沢二・九州大名警教授(鉱山学)によるとピーク時は推定で銀は
1500トン、銅は足尾に次ぐ産出量を誇ったという。
吹屋(ふきや) (精錬所)が76軒も立ち、そのにぎわいは「銀山三
千軒」と呼ばれた。だが間もなく湧水のため採掘が難しくなり、高品位
鉱脈も枯渇。天和2年(1682年)に民間譲渡に変えられた。

平賀源内が訪れ、対策を講じたが良薬はなかった記録がある。
それでも住民や民間企業が採掘を続け、
閉山したのは1973年だった。



坑道内を数歩できる青木間歩



東大寺大仏の銅伝承が残る 摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川

多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩く 2016. 8.18.& 8.24.

最盛期の江戸時代の街道部の景観や家並・多数の坑道(坑道)などがそっくりそのまま残る

また、すぐ近くで 銅の露頭がみられるものにもびっくりしました。



銀山町間歩絵図 本町・大口間歩・代官所付近

大口間歩
(おおくちまど)

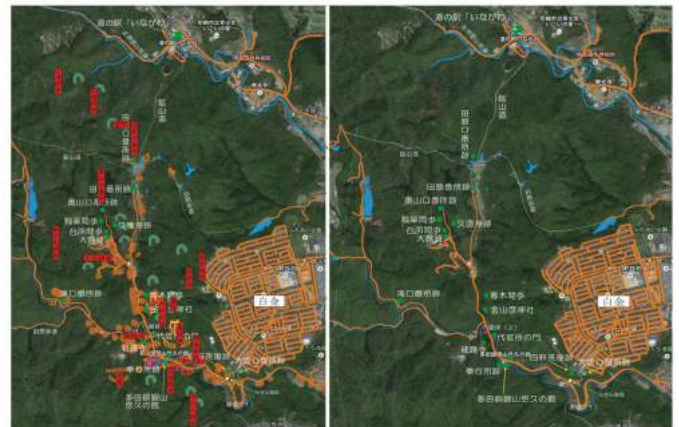
江戸時代に良質な鉱筋(鉱脈)が発見され、ふたたび盛山を迎えるきっかけとなった間歩。寛文期の最重要間歩である。周辺には多数の間歩が描かれ、大口間歩とその周辺の間歩を含め七口間歩とも称される。「銀山町間歩」には大口間歩とその枝筋の諸間歩をぐるりと取り囲む様子が描かれ、その重要性がうかがえる。

本町
(ほんまち)

銀山町の中心として栄えた町並み。絵図には道の両側には建物が軒を連ねて描かれている。現在も旧家が残り、往時の様子が窺われる。



多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理



多田銀銅山跡 探索 のpageより http://www.geocities.jp/_windmill/ginzan/ginzan.html

江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図 (1)

江戸時代 最盛期の銀山町下流の銀山町東部分 大口間歩周辺

銀山町の中心で 代官所・高社場・本町には炊屋(銀・銅の精練工房)などの家並みがびっしり並んでいる。
また、大口間歩は良質な鉱筋が発見され、再び繁栄のきっかけとなった間歩。寛永年間の最重要間歩である。
絵図には 大口間歩周辺に多数の間歩が記されており、周辺間歩を含め、7口間歩と呼ばれた。



悠久の館 多田銀銅山の絵図 映像資料

江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図

悠久の館 多田銀銅山の絵図 映像資料

銀山川が流れる狭い谷筋 道の両側に「銀山三千軒」と呼ばれた鉱山町とともに 当時の盛山を支えた大口間歩・鉱筋間歩や代官所・金山彦神社(山の神)そして 銀山への4つの入口(番所)【東:大坂口番所 南:南口番所 西:奥山口番所 北:田原口番所】など当時の多田銀銅山の様子が描かれ、当時の繁栄ぶりがうかがえる。
(当時の銀山三千軒の中に、銀・銅精練にかかわる炊屋が狭つまあったという)
現在の銀山町の繁栄は少なくなりましたが、当時の盛山町を思い起こさせる景観がそっくりそのまま残っている。



多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理



- ① 千石間歩 ② 龍道間歩 ③ 台所間歩 ④ 薬師堂 太閤秀吉公 勧進山神宮 ⑤ 久徳寺
- ⑥ 大水抜 ⑦ 普請止 ⑧ 御着間歩 ⑨ 踏間歩 ⑩ せと谷 ⑪ 金山彦神社 ⑫ 川戸間歩
- ⑬ 桜間歩 ⑭ 谷間歩 ⑮ 大徳間歩 ⑯ 矢竹間歩 ⑰ 大口新間歩 ⑱ 珍鉱間歩 ⑲ 御米蔵之所
- ⑳ 本間歩 ㉑ 水抜 ㉒ 銀山代官所 ㉓ 大金間歩 ㉔ 十六人間歩 ㉕ 千石院寺 福荷社
- ㉖ 甘露寺 ㉗ 御神宮 御旅所 ㉘ 半屋 ㉙ 新口 御小屋 番所

江戸時代 最盛期の銀山町間歩絵図 (2)

江戸時代 最盛期の銀山町 上流の銀山町西北部分 狐草間歩周辺

秀吉の馬印を掲げることを許されたと伝えられるほど大量の銀・銅を産出。秀吉・大坂を支え、秀吉の陣し量とも呼ばれたほど、大口間歩とともに多田銀銅山の中心の間歩。



悠久の館 多田銀銅山の絵図 映像資料

豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊) 兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11 6:00

■「南蛮吹」を駆使

井沢名譽教授は「近世鉱業で重要な『南蛮吹(ぶき)』が発見する場となった点」を重視する。南蛮吹は銀鉱石から銀を分離する、当時では最先端の精錬技術。大坂の炊屋で用いられていた最新技術が17世紀前半には多田でも駆使され、生野銀山に伝えたことが分かっている。大坂平野の中心からわずか約20キロの地の利が、技術導入につながったようだ。
探鉱から精錬までを図解した「摂州多田銀銅山鉛石吹立次第荒増」(はくせるきたて)次第荒増(あらまし)など様々な古文書が現存し、鉱山経営の実態と処置が史料から確認できる点でも、貴重な遺跡だという。

猪名川町は15年前から遺跡の保存と活用を本格化。一帯を踏査して14の間歩群を確認し、代官所跡や番所跡などを発掘した。国史跡となり、さらに拍車がかかる見通しだ。
だが強風もある。一部の心ない人たちが私有地に無断で立ち入るなどで露筋や間歩で鉱石を採取し、遺構を破壊する被害が深刻化している。
多田に残る秀吉の度重なる伝説もこうした行為の一因という。
町教委によると地蔵堂の在りかを記したと称する文書はどれも明治以降のもの。採掘資金を調達しようとする銀山の豊かさを誇張した言説が蔓延したようで、井沢名譽教授は「全くの作り話」と断る。
「価値ある文化財として正しく認識してもらい後世に残したい」と青木さんは話す。

明治維新の後、各地の有力鉱山が官営化される中で、多田銀銅山は民間の手で操業が続けられた。
猪名川町には豊相屋の鉱山家、塩家が明治40年(1907年)に先進的な機械選鉱場と精錬場を建設。第1次大戦後の銅価格暴落のため未完成に終わったが「官営鉱山とは異なる鉱業近代化の試みとして貴重」と井沢英二・九州大名堂教授は指摘する。
れんが造りの遺構が資料館「悠久の館」の隣地に保存されている。
兵庫県川西市にも江戸時代は多田銀銅山の炊屋(精練所)が集積し、明治以降も銅の精練が続けられた。
同市郷土館は昭和初期まで操業していた近代の精練所の経営者、平安(ひらやす)家の旧邸宅を利用したもの。
敷地内には精練所の遺構が残るほか、鉱山資料や発掘成果の展示室を設けてあり、往時の様子を知ることができる。



インターネットより採取資料整理

新名神広根地区工事現場 猪瀬谷坑道群間歩・台所現地説明会資料 平成26年3月14日 より

製錬

江戸時代の文獻によると、多田銀銅山ではからく「南蛮吹」が行われていたようで、寛永9年(1632)、多田銀銅山の製錬技術が生野銀山に伝えられたという記録が残されている。当時、多くの銀山が「南蛮吹」の状態で大坂へ出荷するなか、多田銀銅山は製錬の場に進んだ「製錬」(後製錬)の状態で大坂に出荷していた。多田銀銅山では、元禄元年(1688)、山下役所の敷地にもない、これまで各山でやっていた山吹(製錬)が禁止され、銀山町と山下の炊屋での製錬に限定されるようになります。

① 煎鉱

煎鉱した鉱石を煎炭で約6〜7日間焙焼し、鉱石の塊状性を減らす。

② 鉛吹

煎鉱した鉱石を煎炭(炭)で焙焼し、鉛を抽出する。

③ 煮吹

煎った鉱石を煎炭(炭)で焙焼し、鉛を抽出する。

④ 煮吹

煎った鉱石を煎炭(炭)で焙焼し、鉛を抽出する。

⑤ 合吹

煎った鉱石を煎炭(炭)で焙焼し、鉛を抽出する。

⑦ 灰吹

煎った鉱石を煎炭(炭)で焙焼し、鉛を抽出する。

⑧ 南蛮吹

煎った鉱石を煎炭(炭)で焙焼し、鉛を抽出する。

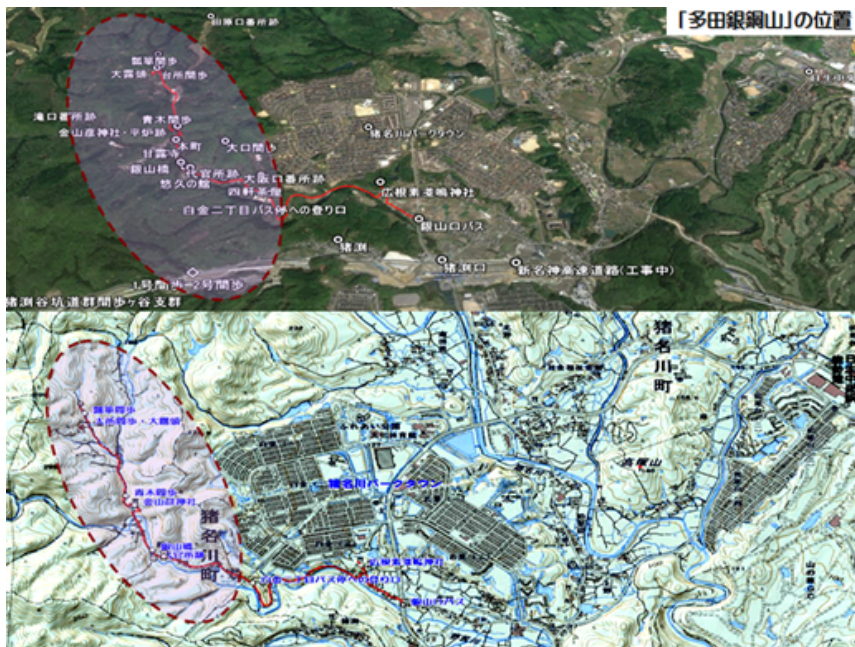
猪名川町教育委員会2012『多田銀銅山を知る』より引用。一部改題



<https://www.youtube.com/watch?v=ApjARy01Ek> などより



坑口のすぐ前に隣接して、選鉱・焙焼・精錬の銅精錬の諸施設があるのにびっくりしました。



摂津国の鉱物資源帯 能勢・猪名川
多田源氏・秀吉の隠し蔵「多田銀銅山」を歩

くま へ

総 括

小さい時から よく名前は知っていた北摂川西の奥の多田銀銅山ですが、初めて訪れることができました。もっと深い山かと思っていましたが、近隣は大阪のベッドタウンとして、都市化が急速に進行中。今も新名神の工事が進む発展途上の地域。びっくりでした。

坑道にも入れたし、山に登ることもなく銅鉱脈の大露頭が見れたのには本当にびっくり。一番の収穫。

また、銅・銀製錬のプロセスが、繁栄した江戸時代になっても 手作り工房感が強いのにびっくりで、鉱山町「銀山」も たたら製鉄の鉄山とは随分印象が違ふ。

国の史跡に指定されたところで、キャッチフレーズばかりが、ちょっと先行しているイメージが強い。

奈良の大仏の銅 多田源氏・秀吉の埋蔵金 そして 南蛮吹も いち早く取り入れたのが多田銀銅山とも。自然銅や硫化物鉱石が枯渇して衰退しながらも、硫化物原料を大量に使い再度繁栄に転じるなど技術的な劇変も経験していることも初めて知りました。色々考えをめぐらすと面白い。

また、銀銅山と同じ鉱脈が続く猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷支群から坑道の前で鉱石処理から製錬までの銅取り出しの諸施設が見つかったのにも興味津々。初めて目にする銅精錬遺構の写真にびっくりするし、銅製錬のイメージ 随分参考に。

猪瀬谷の新名神建設現場沿いをたどってみました。残念ながら遺構を見られませんでした。

夏の暑いさなか、ゆったりと色々想像しながら、緑の中の山里の街道筋 ぶらぶら歩くと結構楽しい。

また、川西の街まで30分足らずで、出れるのも魅力。

2回にわたる 銀銅山の鉱山町のぶらぶら歩き

すごい夕立にも出会いましたが 楽しい多田銀銅山Walkでした。

2016.8.30 多田銀銅山walkの資料を整理しながら

参考資料

1. 猪名川町教育委員会編「多田銀銅山」 2014.11月
2. 悠久の館 多田銅銀山の絵図 映像資料
3. 豊臣と徳川 潤したヤマ 多田銀銅山(時の回廊)兵庫県猪名川町 日経新聞 2015/9/11
インターネット より http://www.nikkei.com/article/DGXLASHC07H2S_X00C15A9AA1P00/
4. 多田銀銅山地区の間歩分布 インターネットより採取資料整理
多田銅銀山跡 探索 のpage より http://www.geocities.jp/i_windmill/ginzan/ginzan.html
5. 多田銀山史跡保存顕彰会 のページ
<http://www.tadaginzankenshoukai.com/> 多田銀銅山探訪ガイド/多田銀銅山の史跡/
6. 400年前からある“吹き場のまち” — 多田銀山精錬所の街 下財町・山下町 —
<http://www.eonet.ne.jp/~koutaro/local/gezai.htm>
7. 兵庫県まちづくり技術センター
新名神広根地区工事現場 猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会資料 平成26年3月14日
8. 【Youtube 動画】猪瀬谷坑道群間歩ヶ谷群現地説明会 平成26年3月14日
<https://www.youtube.com/watch?v=ApjlaRy01Ek>